

2026 年 8 月 26 日

報道関係各位

「国産フィジカル AI データのエコシステム構築を目指す J-HRTI 本格稼働を開始」
**ツムラ、ヒューマノイドロボット活用を通じて
付帯作業の自動化を通じた生産性向上と医薬品の安定供給を推進**

株式会社ツムラ（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：加藤照和、以下ツムラ）が、参画するコンソーシアム「J-HRTI（Japan Humanoid Robot Training & Implementation／ジェイハーティ）」は、千葉県習志野市内に、日本初※となるヒューマノイドロボットの学習データ収集拠点「関東データファクトリー」を開所し、2026 年 8 月 26 日より本格稼働を開始したことをお知らせします。当社は今年 3 月に J-HRTI に参画し、製造現場における付帯作業の自動化や生産性向上に取り組んでいます。今後、ヒューマノイドロボットの活用を通じて、漢方製剤の安定供給の実現と生産拠点のスマートファクトリー化を推進していきます。



（写真左から 2 番目）当社執行役員 生産本部長 熊谷昇一 ※2026 年 8 月 26 日撮影

■参画の背景と目的

当社グループの漢方製剤の製造工程においては、全行程への産業用ロボット、無人搬送車の導入など自動化・監視化を進めてきた一方、「付帯作業の自動化」として人手作業の自動化が課題であり、これまでにロボットアームによるステンレス容器蓋の自動脱着に関する技術開発や、包装資材の補充作業などの付帯作業の自動化の検討を進めてきました。

※国内の民間企業のみで構成される団体が運営するフィジカル AI・ロボットデータファクトリーとして日本初

自然と健康を科学する

お問い合わせ先

株式会社ツムラ コーポレート・コミュニケーション部 広報課 担当：林・吉崎

〒107-8521 東京都港区赤坂 2-17-11 TEL.03-6361-7100 shuzai@mail.tsumura.co.jp

本コンソーシアムでの取り組みを通じて、人と同じ形状・動作範囲で作業ができるロボットに生産作業データを学習させて展開することで、既存のインフラや設備、そして現場ノウハウを変えることなく、自動化を加速させることが可能であると考えています。将来的には、これらを既存施設や新工場に導入することで、生産性向上と医薬品の安定供給の実現を目指していきます。

■「J-HRTI 関東データファクトリー」について

「J-HRTI 関東データファクトリー」は、「データ生成→データ整備→実環境検証」を同一施設内で、一気通貫に実施できる点が大きな特徴の 1 つです。施設内の「ロボットエリア」では、ヒューマノイドロボットとオペレーターが常駐し、模倣学習の“元データ”を生成最大 40 台（稼働開始時 35 台）のロボットが作業を学習していきます。「アノテーションエリア」では動作映像・関節データを専門スタッフが整備し、AI が理解できる学習データへと変換します。「テストエリア」では参画企業の実環境を再現し、導入に向けた検証・調整（PoC）を反復し、実環境での検証を短いサイクルで繰り返します。



ロボットに模倣学習を行う「ロボットエリア」



動作映像などを学習データに変換する「アノテーションエリア」

本拠点の最大の特長は、民間企業のみでの合意形成によって、ヒューマノイドロボットが「進化し続ける仕組み」を実現することです。業種を越えた企業が共同で、製造・物流などの産業現場で活用できる「国産フィジカル AI データ」を収集・整備し実機への実装を進めてまいります。

各企業へ導入後も、現場で得られた新しい知見をデータに反映させ、継続的に学習データを更新・改善することで、ロボットの動作精度向上につながります。この循環メカニズムこそが、「国産フィジカル AI データのエコシステム」であり、日本のものづくり産業を支える新たな基盤となることを目指しています。



ヒューマノイドロボットに模倣学習をする様子



約 30 台のロボットが並び、模倣学習を実施

■ J-HRTI の特徴と今後の展開について

「データ生成→データ整備→実環境検証」の循環は各企業へ導入された後も続くことが大きな特徴の1つです。参画企業が現場で運用する担当者の知見をデータフィードバックとして本拠点に還流させ、新たな学習データへ変換、最終的には全参画企業のロボットの精度向上に活かされます。

ツムラは、現場で得られるデータや作業ノウハウを継続的に学習へ反映し、ヒューマノイドロボットの性能向上を推進します。運用を通じてロボットの現場適応力を高めることで、生産性・業務品質の向上と自動化領域の拡大を目指します。

■ 「関東データファクトリー」施設概要

項目	内容
施設名称	関東データファクトリー
所在地	千葉県習志野市内
敷地面積	約 1,400 m ²
本格稼働日	2026 年 8 月 26 日
ロボット台数	35 台（最大 40 台まで拡充予定）
常駐スタッフ	約 100 名（オペレーター50 名以上+アナテーター等）
運営主体	J-HRTI（事務局：INSOL-HIGH 株式会社）

■ コンソーシアム「J-HRTI」について

J-HRTI は、ヒューマノイドロボットの社会実装を民間企業のみで推進するコンソーシアムです。2026 年 3 月 26 日に設立され、「学習データの生成・共有」「実証環境の共同利用」「社会実装モデルの設計」を柱に、2026 年度内の現場導入の実現を目指しています。設立時に 3 社だった「J-HRTI」の参画企業は、本日時点で製造・物流・食品・医薬品・リース・商社など 5 社にまで拡大しています。

データ整備にとどまらず、PoC（概念実証）から実装・運用までを見据えた"実装の型"を産業横断で確立し、導入スピードと再現性を高めます。さらに、PX（Physical AI Transformation）ヒューマノイドロボットの社会実装を通じて労働構造そのものを再設計する取り組みの実現を目指し、日本のものづくり産業の生産性向上に貢献していきます。 <https://j-hrti.com/>



■ 「J-HRTI」参画企業

運営委員長：株式会社山善 トータル・ファクトリー・ソリューション支社 参与 中山 勝人

運営委員：

- ・株式会社ツムラ （本社：東京都港区） <https://www.tsumura.co.jp/>
 - ・株式会社ディーエムエス（本社：東京都千代田区） <https://www.dmsjp.co.jp/>
 - ・芙蓉総合リース株式会社（本社：東京都千代田区） <https://www.fgl.co.jp/>
 - ・株式会社山善 （本社：大阪府大阪市） <https://www.yamazen.co.jp/>
- 他、1 社

事務局（全体設計・データ基盤運営）：

・INSOL-HIGH 株式会社（本社：東京都千代田区） <https://insol-high.com/>

■主な役割

1. ロボット学習データの生成・共有
（ヒューマノイドロボットに必要なフィジカルデータを共同で収集・蓄積）
2. 社会実装モデルの共同設計（産業現場で利用可能な運用方法や安全基準を整備）
3. 実証環境の共同利用（検証設備を共有し、導入コストとリスクを分散）
4. 日本発の標準化推進（ロボット運用やデータ活用のルールづくりを推進）

■代表者によるあいさつコメント（一部抜粋）



執行役員
生産本部長 熊谷 昇一

当社グループでは、漢方製剤の安定供給と生産性向上の実現に向け、漢方バリューチェーン全体の DX を推進しています。これまで製造工程の自動化を進めてきましたが、人手による付帯作業の効率化は重要な課題の一つでした。J-HRTI の取り組みは、ヒューマノイドロボットが現場で継続的に学習・進化する仕組みを業界横断で構築できる点に大きな意義があります。

当社は製薬企業として培ってきた生産現場の知見を提供しながら、実環境での検証と実装を進め、生産拠点のスマートファクトリー化を加速していきます。これにより、品質と安全性を確保しながら、医療現場への安定供給という使命を果たしていきます。

■今後の展望

当社グループでは、長期経営ビジョン「TSUMURA VISION “Cho-WA” 2031」の実現に向けたロードマップとして定めている第2期中期経営計画（2025～2027年度）の1つに、「最高の顧客体験価値の創造を目的とした漢方バリューチェーンのDX化による安定供給・ローコストオペレーション体制の確立と製品価値の向上」を掲げ、製造工程における監視・管理業務へのシフトや工程の自動化実装、システムと連動した生薬調達と在庫の確保などを目指しています。

本コンソーシアムでの取り組みを通じて、人と同じ形状・動作範囲で作業ができるロボットに生産作業データを学習させ、将来的には既存施設のみならず新工場などの各生産拠点に導入、展開に向けた取り組みを加速させていきます。漢方製剤の生産拠点のスマートファクトリー化をめざすとともに、生産性のさらなる向上、漢方製剤の安定供給を実現し、最高の顧客体験価値の創造に寄与していきます。

以上